

緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)

〈主な派遣実績〉		隊員数 (人)	のべ人数 (人・日)
R2年	7月豪雨	127	909
R3年	1月7日大雪	45	79
R3年	台風第10号	9	42
R3年	CFS(豚熱)	1	1
R3年	福井県記録的短時間大雨	9	42
R3年	12月25日から大雪	26	54
R4年	8月4日から大雨	41	117
R4年	台風第14号	2	4
R4年	鳥インフルエンザ	2	2
R5年	1月24日から大雪	64	116



南海トラフの巨大地震・津波等に対する取り組み

【直轄国道の被害想定】

	浸水延長	橋梁の 重大な損傷	海岸擁壁の 重大な損傷	ガレキの 堆積
和歌山県	約100km	53橋	約20km	約30km

和歌山・紀南河川国道事務所調べ 平成26年5月現在



【道路啓開計画】

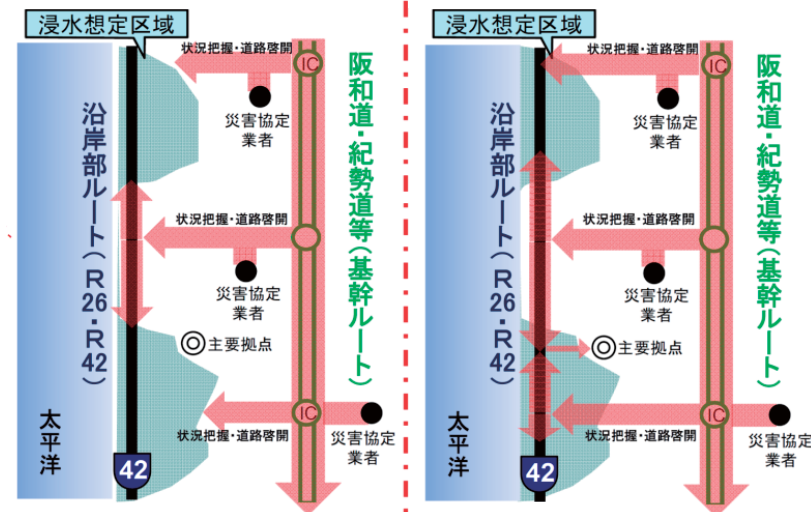
- 「和歌山県道路啓開計画」では、津波被害想定をもとに、緊急輸送道路ネットワーク等を考慮し、優先的に啓開すべき道路を「啓開ルート」として選定
- 人命救助を目指した救助・救援ルートを確保するため「道路啓開」の段階目標を設定

【STEP1⇒発災後、24時間以内完了目標】

基幹ルート、及び沿岸部への進出ルート等(浸水想定区域外)を確保

【STEP2⇒発災後、48時間以内完了目標】

津波警報解除後、主要拠点(市役所等)への進出ルートを確保



【堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点】

■当該防災拠点は、南海トラフで発生する地震・津波等による大規模災害が発生した際に、「救援支援物資の中継・分配機能、海上輸送支援機能、広域支援部隊の集結地・キャンプ機能、災害医療支援機能」等の重要な役割を担うとともに、平常時は市民の憩いの広場として利用。



【地震発生時における応急活動】

■発災後速やかにヘリやCCTV等を用いた被災状況調査を実施するとともに、TEC-FORCEを派遣し、津波浸水地域では排水ポンプ車による排水活動を関係機関と連携して実施。



Society5.0：現実空間と仮想空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する未来社会

近畿地方整備局におけるインフラDX推進の取り組み

■ 災害復旧現場における自動化施工

○施工条件のプログラムに基づき、複数の建設機械が自動で施工

自動化施工のイメージ

1人で複数台の機械をモニターで監視

ARマーカーを用いた自動化施工

■ ドローンによる危険箇所の自動点検

○ドローンが目視から外れるため、飛行ルートを予めプログラム

○防災やインフラ管理では目視外の自律飛行は全国初

大規模崩壊地

渓流沿いに
対岸斜面部を飛行

ドローン2機を用いた自律飛行イメージ

■ 監督・検査のリモート化(遠隔臨場)

○映像データを活用し監督検査を行う、建設現場の新たな働き方を推進

遠隔臨場のイメージ

事務所(整備局職員)

現場(施工業者)

監督員の確認状況

現地の測定状況をモニターに映す

■ BIM/CIM(3次元)モデルの活用

○地質、測量、設計などの3次元統合モデルを作成

○いつでも、誰でも自由に必要なデータを共有し、それぞれの施行ステップに応じた検討が可能

近接する高圧線との離隔など、安全管理を検討